

製品名: EWSR1 ウサギモノクローナル抗体**カタログ番号: AMRe86491**

研究使用のみ

概要

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,FC
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	0.51mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50mM トリスグリシン（pH 7.4）、0.15M NaCl、40%グリセロール、0.01%アジ化ナトリウム、0.05%保護タンパク質を含む溶液で提供されます。受領日から12ヶ月間安定です。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:2000-1:20000,IHC 1:200-1:500,ICC/IF 1:200-1:1000,FC 1:50-1:200
分子量	Calculated MW:69 kDa; Observed MW:85 kDa

抗原情報

遺伝子名	EWSR1
別名	EWS; EWS-FLI1; bK984G1.4
遺伝子ID	2130
SwissProt ID	Q01844
免疫原	ヒト EWSR1 の合成ペプチド

背景

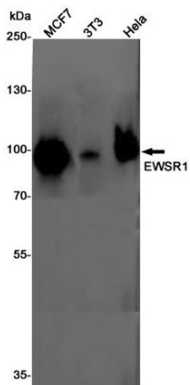
この遺伝子は、遺伝子発現、細胞シグナル伝達、RNAのプロセッシングおよび輸送など、様々な細胞プロセスに関与する多機能タンパク質です。

ク質をコードしています。このタンパク質は、N末端転写活性化ドメインとC末端RNA結合ドメインを含んでいます。この遺伝子と様々な転写因子をコードする遺伝子との間の染色体転座は、腫瘍形成に關するキメラタンパク質の産生をもたらします。これらのキメラタンパク質は通常、このタンパク質のN末端転写活性化ドメインと転写因子タンパク質のC末端DNA結合ドメインが融合したもので構成されています。この遺伝子の変異、特に t(11;22)(q24;q12)転座は、ユーイング肉腫、神経外胚葉性腫瘍、その他様々な腫瘍を引き起こすことが知られています。この遺伝子の選択的スプライシングは、複数の転写バリエーションを引き起こします。關連する偽遺伝子が1番染色体と14番染色体上に同定されています。[RefSeq提供、2009年7月]

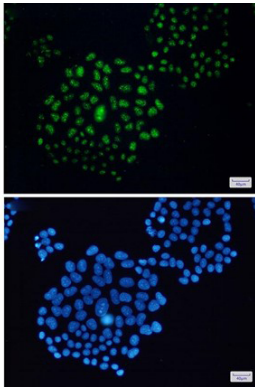
研究分野

-

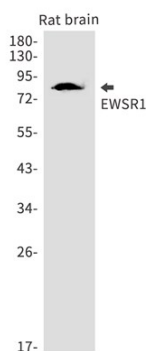
画像データ



EWSR1 抗体 (1:1000 希釈) を使用した MCF7、3T3、HeLa 細胞溶解物中の EWSR1 のウエスタンプロット検出。



AMRe86491 抗体 (緑) と DAPI (青) を使用した HeLa 細胞の免疫蛍光分析。



EWSR1 抗体 (1:1000 希釈) を使用したラット脳溶解物中の EWSR1 のウエスタンプロット分析。

AMRe86491 を 1:6000 で使用して、C2C12 細胞およびラット腎臓、ラット心臓組織からの抽出物のウエスタンブロット分析を行いました。

